

特定非営利活動法人 東海自然学園
2023 年度 総会議案書

日時：2023 年 6 月 21 日（金）13 時 00 分
会場：神田荘

議事次第

- 1、 開会
- 2、 代表理事挨拶
- 3、 議長選任
- 4、 審議事項
 - 第 1 号議案 2022 年度事業報告の件
 - 第 2 号議案 2022 年度収支決算報告の件
 - 第 3 号議案 2023 年度事業計画の件
 - 第 4 号議案 2023 年度収支予算計画の件
 - 第 5 号事案 2023 年度役員選任の件
 - 第 6 号議案 年会費変更に関する件
- 5、 質疑及び討論・採決
- 6、 閉会

<第1号議案>

2022年度事業報告

(2022年4月1日～2023年3月31日)

【2022年度方針】

◎コロナを乗り越え、前向きに！

- 新型コロナウイルスの影響により2年間中止していた宿泊を伴う講座を再開。参加者全員が参加直前にPCR検査・抗原検査の何れかを行い、当日も検温・マスク着用・アルコール消毒を必須とする厳しいルールの中での実施となったが、参加者の理解と協力により3年振りとなる宿泊講座も、トラブルなく実施することができた。
- 学園祭は感染防止に配慮し、基調講演のOB参加人数を30名に限定して開催。開催日が急遽早まり9月の開催となったが、展示やステージ、ワークショップにて各クラス、科、クラブが工夫を凝らした発表を披露し、学園祭を大いに盛り上げた。
- 12月、当学園の活動(クラブ)において初めて感染者が発生。活動におけるリーダーと当事者の敏速な対応と、メンバーのルール厳守(5日間活動自粛)により、最小限に感染を喰いとめることができ、その後も変わらず活動を継続することができた。

◎小さな声も、魅力ある活動につなぐ！

- 会員からの要望や提案を吸い上げ、新しい制度として学園の運営に積極的に取り入れることができた。今年度より新たにスタートした下記の取り組みや制度は、会員の声に応える形で実現した。
 - ① ケヤキ通信をカラーで見たいという声に応え、6月より学園ホームページの「会員専用ページ」にて、ケヤキ通信をデータで読めるようにした。
 - ② 「スタッフになり学園を支えたい」「新しい学びを広げたい」といった積極的な声を大切にするため、設立当初からのルールを新しく改正した。
 - 基礎科のみの修了であってもスタッフに立候補できるようルール変更した。
 - 基礎科のみの修了であっても専修科講座を受講できるようルール変更した。

① 自然活動リーダーの養成講座事業

東海シニア自然大学 講座部

■基礎科

- ◇入学者 ◎花組(36名) ◎星組(36名)
- ◇実施日
 - ・花組 第1・第3火曜日
 - ・星組 第2・第4火曜日
- ◇担当
 - ・花組 スタッフ4名、アシスタント3名
 - ・星組 スタッフ4名、アシスタント2名
- ◇修了者・皆勤者数
 - ・花組 33名 ◎1年間皆勤6名
 - ・星組 35名 ◎1年間皆勤9名
- ◇資格取得者(自然観察アドバイザー)
 - ・花組(19名) ・星組(30名)
- ◇高等科への進学者数
 - ・36名

◇内容報告

- ・ 講座中の大きな怪我や事故などなく、安全に1年間の講座を実施することが出来た。
- ・ 休学・退学者があったが、それぞれ個々の事情（健康上の理由など）によるものだった。
- ・ 受講時の新型コロナウイルス感染防止対策として、マスクの着用・「健康チェックシート」の提出・受付での検温と消毒を実施した。
- ・ 3年ぶりに1泊2日の合宿を「おんたけ休暇村」にて実施した。新型コロナウイルスによるルールや規制があり、車内での会話や夕食後の懇親会などは十分にできなかったが、班対抗ゲームや共に過ごす時間の中で、互いの距離が縮まった。

◇委員会活動

【企画委員会】

- ・ **花組**〈日帰り企画〉9/6（火）愛知県陶磁美術館にて座学、展示見学、陶芸体験（28名参加）
〈修学旅行〉トヨタ白川郷自然学校にてスノーシュー体験、白川郷見学（29名参加）
- ・ **星組**〈日帰り企画〉8/2（火）伊吹山にて植物の観察、散策（22名参加）
〈修学旅行〉トヨタ白川郷自然学校にてスノーシュー体験、白川郷見学（31名参加）

【観察記録委員会】

- ・ 両クラスともに個人の観察記録を立派な冊子に仕上げ、報告会にて発表した。
- ・ 星組はデータ（CD）も数部作成。

【学園祭委員会】

両クラスともに委員会を中心にクラス全体で取り組み、ステージ発表（星組のみ）、展示、ワークショップに挑戦した。開催日変更により準備期間が短かったにもかかわらず、ワークショップでは様々な工夫が施された自然工作が展開され、多くの参加で賑わった。それぞれの完成度も高く、両クラスともに学園祭の自己評価は高く達成感を味わうことができた。

●実施日：9月22日（木）・23日（金）

●会場：愛・地球博記念公園内 地球市民交流センター

花組

◎〈展示〉『身近で感じる自然の楽しさ』

◎〈ワークショップ〉『身近な自然素材でLet's Enjoy クラフト』

星組

◎〈ステージ〉『無限の自然、輝く太陽、きらめく星！』～クイズ・合唱・寸劇など～

◎〈展示〉『無限の自然、輝く太陽、きらめく星』

◎〈ワークショップ〉『きらめく星型ブローチ』～椿の実の殻を使用～

■高等科

◇実施日 金曜日（原則）

◇担当 スタッフ（5名）

◇修了者数

- ・ 32名 ◎2年間皆勤者（2名） ◎1年間皆勤者（4名）

◇資格取得（自然観察上級アドバイザー）

- ・ 21名

◇実施内容

- ・ 講座中の大きな怪我や事故などなく、安全に1年間の講座を実施することが出来た。
→夏の講座で熱中症の症状がみられたが、スタッフの処置により回復
- ・ 受講時の新型コロナウイルス感染防止対策として、マスクの着用・「健康チェックシート」の提出・受付での検温と消毒・道具の消毒・換気・密を避けての着席を必須とした。
- ・ 例年、春に実施する1泊2日の合宿は、「日帰り講座」に変更し6月に実施した。
→（静岡県立森林公園）
- ・ 修学旅行は宿泊案と日帰案の両方を立てていたが、新型コロナウイルスの感染を考慮して皆の判断で日帰りの修学旅行とした。

◇委員会活動

【企画委員会】

- ・（日帰り企画）10/6（木）琵琶湖博物館と彦根城を森先生の解説で見学（30名参加）
- ・（修学旅行）3/9（木）「駿府の家康・駿河の海、探索の旅」とのタイトルで静岡市歴史博物館の見学、クルーズ船で海を巡り、東海大学海洋博物館を見学（30名参加）

【観察記録委員会】

- ・委員会が中心となり全員の観察記録を冊子にまとめ完成させた。

【学園祭委員会】

第10回学園祭のテーマ「自然を楽しみ 自然から学ぼう！」を決定し、委員会メンバーを中心に盛り上げた。

- 実施日：9月22日（木）・23日（金）
- 会場：愛・地球博記念公園内 地球市民交流センター
 - ・〈ステージ〉『樹木の名前をしらべよう』～クイズ&解説～
 - ・〈展示〉『繋ごう 自然への熱い思いを』
 - ・〈ワークショップ〉『自然素材を使って作ろう』※数種類のクラフトを展開

■カリキュラム選択科

3年ぶりに選択科の受付を再開。今年度は下記の科目に選択科参加があった。

前年度の高等科はコロナの影響により実施できなかった科目があり、その影響で選択科への申込が例年より多くあった。

- ・「湿地を知る」北山湿地 2名
- ・「身近な野草」義朝の森 7名
- ・「植物を知る②」鬼崎海岸 6名
- ・「昆虫と植物の関係」海上の森 2名
- ・「昆虫と菌類の共生」稲武 4名
- ・「水辺の生きもの②」岐阜大学 1名
- ・「地質めぐり②」知多半島 6名
- ・「水辺の生きもの③」庄内川 7名
- ・「中部の自然を知る①」森林公園 1名
- ・「中部の自然を知る②」鳳来寺山 1名
- ・「インタープリテーション①」東山動物園 3名
- ・「森林保全を学ぶ②」森林公園 1名
- ・「クラフトを楽しむ」熱田生涯学習センター 1名
- ・「インタープリテーション②」熱田生涯学習センター 1名

■専修科

- ◇ 担当 2名（講座により+1名応援）
- ◇ 定員 最大20名（講座により20～17名） 催行最少人数12名
- ◇ 実施日 年間10講座 13日間
- ◇ 実施内容
 - ・計画通り年間10講座、13日間講座開催した
 - ・延べ受講者数257名日 欠席率4%
 - ・いずれの講座も受講者の評価は大変良かった。
 - ・講座開催によるコロナ感染者の発生はなかった。

広報

- ◇ 担当 スタッフ＝5名、サポート隊＝5名
 - ・コロナ禍で変則的な活動であったが18期生の定員確保に繋げることができた。
- ◇ 実施内容
 - 『19期生募集』
 - 募集パンフレットの発行数は15,000部とした。

- ・第1回目発送： 6月21日 261ヶ所 4,176部
- ・第2回目発送： 10月17日 614ヶ所 8,025部

『体験入学』

- ・内容 ●代表あいさつ ●学園の概要説明 ●ミニ講座
- ・会場 愛知県森林公園 (座学：多目的室)
- ・講師 久村三重子(2期生)
- ・第1回 7月22日 申込者が少なかったため中止
- ・第2回 12月7日 参加人数(34名)
- ・第3回 2月16日 参加人数(35名)

『中日新聞への広告掲載』

- ・中日新聞元旦テレビ欄の紙面に広告を掲載。特別講座の宣伝も兼ねたことが良かったのか、大変な反響があり1月中旬までに19期生への申込者が定員を超えた。
(※新聞広告を見ての申込者が35名あった。)

『学園広報活動』

- ・「イオン・黄色いレシート活動」は、コロナ禍のため店頭活動は中止となり、会員の協力によるイエローレシートを集めて文房具を購入した。(16,300円)
- ・「環境デーなごや」=9月17日に久屋大通公園で開催されスタッフ5名参加した。
- ・「メディア等への投稿」=「天白公園自然観察会」を中日新聞・朝日新聞・日本自然保護協会に掲載依頼し掲載された。

② 普及啓発事業

環境教育部

■環境教育科

- ◇担当 4名
- ◇人数 45名
- ◇方針

社会貢献することを目的とし、様々なインタープリテーション技術の取得、向上を目指す。また、利益を追及する事業のみではなく、利益につながらなくとも自身の向上や社会貢献価値のある事業を実施する。

- ◇目的 自然の仕組みや魅力、楽しさや大切さを伝える。

◇今年度の目標と達成度

- ・目標① 皆で情報のアンテナを張り、新作の作成や新たな活動に挑戦する！
 - ベテランメンバーも新しいメンバーも新作や新提案の発表に積極的だった。自作の新作、新聞記事、インターネット情報、旅先で見つけた工芸品など、互いを刺激する情報や提案を多く得ることができた。また、新たな挑戦として天白区山根学区でのクラフト教室を実施することができた。
- ・目標② 「アイデア&工夫」を積み重ねて成果(伝える力、売上、魅力)の向上につなげる！
 - 1年間を通して多くの人(主に子ども)に自然工作を楽しんで頂き、収入も得ることができたが、「伝える」という点では工夫が足りなかったように感じる。より自然の魅力や大切さを伝えられるような、工夫を取り入れたい。
- ・目標③ 定例活動の中で研修会や観察会などを実施し、自分達のスキルアップを目指す！
 - メンバーが所有する森で自然観察&自然工作、明德公園でのドングリの学習&観察会を行い、野外での植物観察や自然素材の採集をすることができた。また、メンバーが講師となって指導するミニ講座として「ヒンメリ講座」「バランストンボ講座」「竹の蟹づくり講座」などを実施し、道具の使い方や素材の扱い方などを改めて学び、個々のスキルアップに繋がった。

◇実施内容

- ・ 定例活動・・・18回（第2・第4水曜日）

◇年間活動実績

参加した受託事業や行事

新型コロナウイルスの感染防止対策をしながら下記の受託事業や地域貢献活動に参加・実施した。どの活動も安全にトラブルなどなく実施することができた。

- 戸田川緑地「とだがわまつり」【5/4水～5/5木】参加者（110名+35個）
- 天白区山根学区からの受託事業『自然工作教室』【9/11日】参加者（95名）
- 戸田川「秋まつり」【10/8土】参加者（35名+40個）
- 学園祭作品展示（ワタ作品を中心に）と「木の実のガチャポン」【9/22木～9/23金】
- 学園祭ワークショップ出展「ひょうたん寄せ植え」【9/23金】
- 障害者支援施設へ「ヒノキCAR」材料キット提供【11月】（50名分）
- 障害者福祉施設へ「竹のカーンコロソ」材料キットを提供【2月】（60名分）
- なごや環境大学「共育講座」～ワタの収穫・種取り・糸紡ぎ体験！～
全3回講座の企画・指導【11/18・11/21・11/11】参加者合計（のべ59名）

③ 調査研究事業

研究部

■自然観察科

レギュラーコース4年卒業制を導入し、「レギュラーコース（在籍4年以下）」と「キャリアコース（在籍5年以上）」に分割してそれぞれに運営。

レギュラーコース

◇実施日 第2・4月曜日

◇担当 4名

◇人数 24名

◇目標 お互いに学びあい知識を深める。

◇活動内容

●活動日数

- ・ 例年同様4班集体、各班担当の座学2回・フィールド3回で計画、すべて実施。
- ・ 8月キャリア合同講座は中止でレギュラーのみで座学を実施した。

●フィールド

- ・ 鶴舞公園・海上の森・平和公園・八竜湿地・鯉ヶ廻間湿地・小幡緑地・明智の森
- ・ 森林公園・稲永公園・定光寺・犬山（郷瀬川沿いほか）・築水池周辺

◇総括

- ・ 今年中止になることなくすべて実施できたので良かった。
- ・ 観察会が植物中心で説明することに重点がおかれた傾向。
- ・ 座学で担当班の出席者が少ない時に他班からの発表もあり良かった。
- ・ 鯉ヶ廻間湿地（保全活動と自然観察）、犬山（野鳥観察）などの新しい観察地もあり身近なところでの自然に気づけた。
- ・ 出席率は82%。

キャリアコース

◇実施日 第2・4月曜日

◇担当 1名

◇人数 17名（8期生：1名 9期：5名 10期：3名 11期：8名）

◇内容

- ・ 年間25回の活動を行った。リーダー養成の目的で天白公園観察会を5月、7月、10月と下見3回・本番3回実施。基礎科受託講座（フィールド）を1月下見2回・2月本番2回を行う。

- ・ 4月 多度峡 ・5月 海上の森 ・6月 ひるがの湿原、面の木 ・7月 城山
- 9月 伊吹山、明智の森 ・10月 石徹白 ・11月 段戸裏谷、各務自然遺産の森
- 12月 岩屋堂 ・3月 魚飛溪、やまじの森
- ・ 活動場所は遠隔地が多く、主に車の乗り合わせで出かける。
- ・ 8月レギュラーコースとの合同講座は中止、キャリアのみで学園祭の打合せを行う
- ・ 全体の出席率は80%（16名が分母、長期欠席者を除く）

④政策についての企画提案事業

事業部

■新規事業科

◇担当 4名

◇実施内容

1. 助成金申請活動
 - 1) 「あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業交付金」（2021年度に続き2回目）
 - ・ 森林公園整備科との協働で対応 ・ 申請額：790千円→決定額：687千円
 - ・ 活用状況 ①空調服、ノコギリ、ヘルメット等用具購入 : 330千円
 - ②講演会関係経費（5回） : 185千円
 - ③その他 森林公園入園料、パンフレットの一部負担等、 : 172千円
 - ・ 県主催の活動交流会に参加：2月10日…資料の展示と交流での参加。
 - 2) 「オータケ記念愛知県自然環境保護基金」：3年目の助成…今回は最後
 - ・ 環境教育科との協働で対応 ・ 申請額：416千円→決定額：200千円
 - ・ 活用状況 ①活動の会場費 ②パソコン、工具などの購入予定
 - 3) 「第32回イオン環境活動助成（2023年度活動対象）」申請：8月23日
 - ・ 活動分野：「自然環境教育」をテーマに610千円の申請をしたが落選
2. SDGs研修会実施：あいおいニッセイ同和損保小川氏講師で開催（6/15）
3. 「MOヒューマンサービス（株）」訪問（6/27）
 - ・ 障がい者の作品作り支援への可能性模索…具体的な話し合いには至らず

交流部

◇担当 5名

◇実施内容

- クラブについて
 - ・ コロナウイルスまん延状況に応じ、「ケヤキ通信」に諸対策のお願いを記載し、行動協力をしてもらった。この為、クラブの活動は大幅に制限されたが、クラブ活動中のコロナ感染は1件に収まった。
 - ・ クラブの新規登録は1クラブ「花と蝶の観察クラブ」であった。
- OBの活動について
 - ・ コロナウイルスまん延のため、OB旅行は企画しなかった。
- 「あらくさについて」
 - ・ No. 67～70号と計画どおり4回発行した。

◇各クラブの活動報告

「野鳥クラブ」

●クラブ長 加藤浩生（15期） 登録人員 26名 会費 1,000円/年

●活動方針と目標

野鳥観察を通して、自然に親しみ、会員相互の親睦を図り、楽しい時を過ごす。

- ・探鳥会を4回開催する。
- ・野鳥観察への興味を深めるため、座学を1回開催する。
- ・秋の学園祭にクラブとして参加する。
- ・クラブ員同士の親睦を深める。

●活動内容

■第1回行事：探鳥会

◇5/18（水）9:30～12:00 実施場所：海上の森

◇案内人：日本野鳥の会 愛知県支部 村上 修様 ◇15名参加

■第2回行事：座学 テーマ「黒川の野鳥 続編」

◇8/19（金）10:00～12:10 実施場所：名古屋市北生涯学習センター 視聴覚室

◇講師：日本野鳥の会 愛知県支部 村上 修様 ◇15名参加

■第3回行事：学園祭 タイトル「雌雄で外観の違う野鳥」

◇9/22（木）～23日（金） 実施場所：愛・地球博記念公園「地球市民交流センター」

◇展示内容：今年度活動計画と中間報告、クラブ員が撮影した写真（2L版）17枚

■第4回行事：探鳥会

◇12/8（木）9:00～11:30 実施場所：牧野ヶ池緑地

◇案内人：日本野鳥の会 愛知県支部 村上 修様 ◇14名参加

■第5回行事：探鳥会 → 天候不順で中止（1/25）

■第6回行事：探鳥会

◇3/10（金）9:00～12:00 実施場所：平和公園

◇案内人：日本野鳥の会 愛知県支部 村上 修様 ◇14名参加

「写真クラブ」

●クラブ長 嶋田 茂雄（9期） 登録人員 36名 会費 1,000円

●活動方針

- ・自然の景観・生物、これを取り巻く生活環境等を撮影し作品作りを楽しむ。
- ・活動への参加を通じて会員相互の交流と親睦をはかる。

●活動内容

- ・ 4/6（水）（午前）総会（東山植物園）（午後）植物園エリアでの撮影会
- ・ 5/18（水）浜松フラワーパーク撮影会→撮影方法など講習会
- ・ 6/22（水）（午前）互選会と勉強会（午後）写真教室：教材を用いての解説 他
- ・ 7/27（水）醒ヶ井水中花（バイカモ）と水の都大垣街なみ撮影会
- ・ 8/31（水）（午前）互選会と作品勉強会（午後）画像データでの作品勉強会
- ・ 9/22～23 学園祭にて作品の展示
- ・ 11/23（水）岩村城と城下町撮影会
- ・ 12/7（水）国宝犬山城と城下町撮影会
- ・ 3/22（水）近江八幡・八幡堀撮影会

「自然体験クラブ」

●クラブ長 服部 裕康（12期） 登録人員 66名 会費 1,000円

●活動目的

- ・自然の中で遊び・学び、自然への理解を深め、或いは歴史・文化に触れることを通じて、豊かな人間性、心のかよった人と人のつながりを創り、人と自然が共存する文化・社会の意識を高めることを図る。

●活動方針

- ・様々な自然の中で遊び、自然を分かち合う、
- ・野菜・山菜・木の実・魚介類等の自然の恵みに感謝する、
- ・歴史・文化・自然に関する史跡・遺産等の訪問、
- ・その他目的を達成するための活動、

●活動内容

- ・5/19 (木)「西村自然農園」にて野菜摘みと協同料理を楽しむ (33名参加)
- ・9/17 (土)「有松絞りと街並み散策をたのしもう」 (26名参加)
- ・11/17 (木)「松重閘門と紅葉の白鳥庭園を散策し、秋を満喫」 (31名参加)
- ・3/30 (木)「六華苑見学と三岐鉄道沿線ウォーキング」 (37名参加)

「地質クラブ」

●クラブ長 園田 信五 (11期) 登録人員 111名 会費 1,000円

●活動方針

- ・近隣の地質の成り立ちその影響を観察する。

●総括

クラブ員が111名の大所帯となった。今年度も顧問である森勇一先生に引率をお願いし、観察会を5ヶ所、計8回の巡検を行った。天候による苦勞もあったが、事故も無く無事終了。前期には、2ヶ所の同一コースを二日に分け、貸切りバスで巡検を、後期は3ヶ所4日間の巡検を現地集合で行なった。

●活動内容

◇第1回 三重の中央構造線を満喫する

- 2022年5月24日(晴れ)44名、●2022年5月27日(晴れ)29名

三重県多気町・飯南町粥見を訪ね中央構造線の断層崖を間近で観察した。

◇第2回 パン・サラサの海と伊吹山

- 2022年7月21日(曇り後雨)42名、●2022年7月27日(曇り)35名

伊吹山と大垣市金生山化石館。

◇第3回 スゴイの一言一飛水峡の縞々チャート

- 2022年11月18日(晴れ)28名

上麻生の飛騨川流域で褶曲したチャートを観察し、日本最古の石博物館を見学。

◇第4回 潮騒の神島全島まるごとジオパーク

- 2022年11月24日(晴れ)11名、●2022年12月1日(晴れ)7名

神島にて、隆起した玄武岩岩塊・石灰岩柱を見学。

◇第5回 日本の陶磁器産業を支える「蛙目粘土」～加仙鉾山を訪ねて

- 2022年12月10日(晴れ)37名

「植物クラブ」

●クラブ長 岡島 栄子 (16期) 登録人員 87名 会費 1,000円

●活動方針・目標

- ・植物の魅力と感動を共有
- ・東海シニア自然大学で学んだ植物好きな仲間が集まって、相互の親睦を図り、「中部・東海の植物の魅力と感動」を共有し、植物クラブの枠を超え多くの人に伝播して自然保護や保全に関心を持つ仲間の輪を広げていくことを目指す

●活動内容

- ・5/16(月) 木曾福島 城山観察会 (55名参加)
- ・6/10(金) 戸田川緑地観察会 (40名参加)
- ・9/7(木) 海上の森観察会(50名参加)
- ・9/15(水) 鳥居峠観察会(48名参加)
- ・10/20(木) 愛知県森林公園 (41名参加)
- ・11/30(木) 京都府立植物園 (49名参加)

・3/1（水）東山植物園観察会・総会（79名参加）

「植物アートクラブ」

- クラブ長 松山治和（14期） 登録人員21名 会費2,000円
- 活動日 原則 毎月第4木曜日 午後
- 会場 メイン：福祉会館 サブ：北生涯学習センター/イーブルなごや
- 活動内容 植物画を描くことにより、植物の観察力を高め、その理解を深める
また会員間の親睦を深める

〈2022年度例会活動〉

- ・4/21（木） 13:00～16:00 福祉会館7F 12名 計画・紹介/画材と用具
- ・6/23（木） 13:00～16:30 北生涯学習センター 第2集会室 14名 色、光と影
- ・7/28（木） 9:00～12:00 福祉会館7F 10名 自由作画
- ・8/25（木） 9:00～12:00 福祉会館7F 第1研修室 17名 鉛筆を使う
- ・9/29（木） 13:00～16:00 北生涯学習センター 第2集会室 15名 ハスの花を描く
- ・10/27（木） 9:00～12:00 福祉会館7F 中会議室 13名 ツバキ等の枝葉を描く
- ・11/24（木） 9:00～12:00 福祉会館7F 中会議室 14名 自由作画
- ・12/22（木） 13:00～16:00 福祉会館7F 小会議室 17名 柑橘類を描く
- ・1/26（木） 9:00～14:00 福祉会館7F 中会議室/木曾路 17名 枝葉を描く/新年会
- ・2/23（木） 13:00～16:00 イーブルなごや 第4集会室 16名 シラカシ芽生えを描く
- ・3/23（木） 9:00～12:00 福祉会館7F 中会議室 9名 総会/作品発表会

〈その他の活動〉

- ・5月26日（木） 10:00～14:00 東山植物園 野外スケッチ&ランチ（17名）
- ・11月21日（月） 10:00～14:00 成田山、犬山城散策&ランチ（11名）
- ・1月26日（木） 12:00～14:00 懇親会（17名）

「自然句詠クラブ」

- クラブ長 伊藤繁子（8期） 登録人員19名 会費1,000円
- 活動方針と目的
 - ・ 自然を愛（め）で、その感動を575俳句に表現し楽しむ。
 - ・ クラブ員が少ないので、全員が何らかの役割を担い、クラブの運営に主体的に参画する。
 - ・ クラブ員の交流として、新入員歓迎会と忘年会を行う。

●活動目標

- ・ 月一回自作の3句を持ち寄り句会をする。
- ・ 年一回は、吟行（現地に赴き作句し句会を行う）を行う。
- ・ 一年のまとめとして句集を作成する。

●活動内容

イーブル名古屋を会場として月1回句会を行う

- ・ 77回 4月27日 10名
- ・ 78回 5月30日 11名
- ・ 79回 6月29日 10名
- ・ 80回 7月29日 12名
- ・ 81回 8月29日 13名
- ・ 82回 9月30日 12名
- ・ 83回 10月31日 10名
- ・ 84回 11月29日 12名
- ・ 85回 12月26日 10名
- ・ 86回 1月31日 11名
- ・ 87回 2月28日 10名
- ・ 88回 3月29日 12名

「湿地クラブ」

- クラブ長 小沢 球一（10期） 登録人員14名 会費1,000円
- 活動方針・目標
 - ・ 湿地観察のベテランを育成するとともに湿地に関するデータを作成、収集、保存し併せて湿地保護のボランティア活動を行う。

●活動内容

【湿地観察会】

- ・小幡緑地 4/18 (12名参加)
- ・みずの森 5/20 (7名参加)
- ・昭和の森 6/16 (6名参加)
- ・大狭間湿地 7/30 (4名参加)
- ・尾瀬 8/3~8/5 (3名参加)
- ・森林公園・吉賀池湿地 9/15 (2名参加)
- ・森林公園 10/22 (6名参加)

【湿地保全ボランティア活動】

- ・長久手湿地 1/17 (6名参加)
- ・2/14 (4名参加)

「ハイキングクラブ」

●クラブ長 栗田 博之 (13期生) 登録人員 72名 会費 1,000円

●活動方針

- ・自然観察及び散策、町の歴史探訪を通して自然や歴史にふれあい知識を高める。
- ・体力の維持及び増進。
- ・活動への参加を通じて会員相互の交流と親睦をはかる。

●活動内容

- ・5/21 (土) 熱田神宮ハイキング (33名参加)
- ・9/26 (土) 半田蔵の街・南吉の里ハイキング (36名参加)
- ・11/19 (土) おんな城主の里, 岩村ハイキング (31名参加)
- ・2/18 (土) トヨタ産業技術記念 (35名参加)

「プチ・トレッキングクラブ」

●クラブ長 鈴木 行薫 (15期) 登録人員 85名 会費 1,000円

●活動目標

- ・軽易なトレッキングを通して、自然に親しみ会員相互の研鑽と親睦を図る。

●活動内容

- ・4/19 (火) 中山道 馬籠~妻籠 (26名参加)
- ・6/28 (火) 入笠山 (35名参加)
- ・9/8 (木) 八島湿地 (35名参加)
- ・10/31 (月) 余呉湖・賤ヶ岳 (47名参加)
- ・12/8 (木) 京都トレイル (49名参加)
- ・2/16 (木) 竜ヶ石山 (43名参加)
- ・3/24 (金) 海上の森 (22名参加)

⑤自然環境保全事業

自然保護部

■森林公園整備科

- ◇活動日 ・第2・第4木曜日
- ◇科員数 ・28名
- ◇年間活動日 ・定例整備活動=14回 延べ 252名 (1回平均 18名)
高等科講座 1回 14名
中止= 10回 (10/24)

◇活動内容

- ・活動区域は前年度と同じ区域で行った。
- ・作業前の打合せ・安全作業マニュアルの読み合わせを行い大きな怪我等はなかった。

- ・植生調査を実施、希少植物の保護、除伐作業、観察会を実施した。

■瀬戸里山整備科

年間計画をリーダーを中心に作成し、竹の年度別生育状況調査地点の設定、雑木林の状況調査を実施、竹林は急斜面の作業が多いため、安全作業を最優先とした。

体験整備に8名の参加があり、参加された2名が入会された。

◇担当 2名

◇登録者 20名

◇活動場所 瀬戸市曾野町

◇実施日 第3土曜日、但し雨天の場合は、予備日第4土曜日

◇年間活動日 11日(雨で中止が1日) 述べ参加人数・・・144名

◇活動内容

- ① 安全作業を最優先し、新しい滑車を購入、伐採はロープを使用する等安全性を上げた。
- ② 科員の増員は、2名が加盟されました。
- ③ 学園祭は委員を任命し、全体の参加を呼び掛けた。
- ④ 恒例の門松作りは、家庭で大いに好評を得た。
- ⑤ 総会、懇親会は、コロナの影響で正式には開催出来なかった。

⑥その他目的を達成するために必要な事業

該当事業なし

<第2号議案> 2022年度収支決算報告

2022年度(第16期)活動計算書

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

特定非営利活動法人東海自然学園

科 目	金額(単位:円)		備考
I 経常収益			
1 受取会費			
正会員受取会費	125,000		年会費(25名*5千円)
利用会員受取会費	1,422,000	1,547,000	年会費(474名*3千円)
2 受取寄付金			
受取寄付金	860,858	860,858	あいおいニッセイ同和損保、個人、環境教育科
3 受取助成金			
受取助成金	687,000	687,000	あいち森と緑の交付金
4 事業収益			
自然活動リーダー養成講座事業収益	10,428,600		
普及啓発事業収益	262,180		
調査研究事業収益	0		
政策についての企画提案事業収益	0		
自然環境保全事業収益	0		
その他目的達成するための事業収益	0	10,690,780	
5 その他収益			
受取利息	154	154	
経常収益計			13,785,792
II 経常費用			
1 事業費			
(1) 人件費			
給料手当	3,766,600		
通勤手当	229,040		
法定福利費	684,921		
人件費計	4,680,561		
(2) その他経費			
講師謝礼金	1,565,700		
教材費	119,628		
会場費	647,642		
広報費	495,000		
リーフレット代	313,500		
講師交通費	112,042		
スタッフ交通費	1,593,190		
消耗品費	922,476		ノコギリ、ヘルメット、パソコン 他
家賃	960,000		事務所家賃
接待交際費	0		
水道光熱費	131,426		
コピー機維持費	329,418		
保険料	308,172		NPO活動総合保険
通信運搬費	827,248		郵送費、通信費
諸会費	5,000		
雑費	21,853		
その他経費計	8,352,295		
事業費計		13,032,856	
2 管理費			
(1) 人件費			
給料手当	166,400		会計担当給与
退職給付費用	50,000		
人件費計	216,400		
(2) その他経費			
福利厚生費	12,669		
セキュリティ料	24,858		
旅費交通費	0		
消耗品費	26,446		
租税公課	410,100		消費税
支払手数料	93,566		会計指導料等
雑費	33,000		
その他経費計	600,639		
管理費計		817,039	
経常費用計			13,849,895
当期経常増減額			△ 64,103
III 経常外収益			0
IV 経常外費用			0
当期正味財産増減額			△ 64,103
前期正味財産額			7,073,876
次期繰越財産額			7,009,773

2022年度(第16期)貸借対照表

令和5年3月31日現在

特定非営利活動法人東海自然学園

科 目	金 額(単位:円)		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	20,266,638		
前払金	87,090		
立替金	22,885		
流動資産合計		20,376,613	
資産合計			20,376,613
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	385,890		
前受金	12,071,300		
預り金	9,650		
流動負債合計		12,466,840	
2 固定負債			
退職給付引当金	900,000		
固定負債合計		900,000	
負債合計			13,366,840
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産額		7,073,876	
当期正味財産額		△ 64,103	
正味財産合計			7,009,773
負債及び正味財産合計			20,376,613

2022年度(第16期)財産目録

令和5年3月31日現在

特定非営利活動法人東海自然学園

科 目	金 額(単位:円)
I 資産の部	
1 流動資産	
現金	現金手元有高 343,525
普通預金	三菱東京UFJ銀行植田支店 13,484,158
普通預金	ゆうちょ銀行 4,434,583
定期預金	三菱東京UFJ銀行植田支店 2,004,372
前払金	次年度会場費等 87,090
立替金	22,885
流動資産合計	20,376,613
資産合計	20,376,613
II 負債の部	
1 流動負債	
未払金	3月分給与・社会保険料・交通費等 385,890
前受金	次年度分受講料、年会費 12,071,300
預り金	源泉所得税 9,650
流動負債合計	12,466,840
2 固定負債	
退職給付引当金	900,000
固定負債合計	900,000
負債合計	13,366,840
正味財産合計	7,009,773

2022年度(第16期)財務諸表の注記

特定非営利活動法人東海自然学園

1 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日、2011年11月20日一部改正NPO法人会計基準協議会)による

2 事業費の内訳

科 目	自然活動リーダー養成講座	普及啓発事業	調査研究事業	政策についての企画提案事業	自然環境保全事業	その他目的達成するための事業	事業部門計
(1) 人件費							
給料手当	3,013,280	451,992	37,666	225,996	37,666	0	3,766,600
通勤手当	183,232	27,485	2,290	13,742	2,290	0	229,040
法定福利費	547,937	82,191	6,849	41,095	6,849	0	684,921
人件費計	3,744,449	561,667	46,806	280,834	46,806	0	4,680,561
(2) その他の経費							
講師謝礼金	1,565,700						1,565,700
教材費	112,000	7,628					119,628
会場費	533,342	72,500			41,800		647,642
広報費	396,000	59,400	4,950	29,700	4,950		495,000
リーフレット代	250,800	37,620	3,135	18,810	3,135		313,500
講師交通費	112,042						112,042
スタッフ交通費	1,492,660	100,530					1,593,190
消耗品費	511,883	164,462			245,695		922,040
諸会費	4,000	600	50	300	50		5,000
家賃	768,000	115,200	9,600	57,600	9,600		960,000
接待交際費	0	0	0	0	0		0
水道光熱費	105,141	15,771	1,314	7,886	1,314		131,426
コピー機維持費	263,534	39,530	3,294	19,765	3,294		329,418
保険料	246,538	36,981	3,082	18,490	3,082		308,172
通信運搬費	661,798	99,270	8,272	49,635	8,272		827,248
雑費	21,853						21,853
その他経費計	7,045,291	749,492	33,698	202,186	321,193	0	8,351,859
経常費用計	10,789,740	1,311,159	80,503	483,020	367,998	0	13,032,420
参考 (配布率)	0.8000	0.1200	0.0100	0.0600	0.0100	0	1.00

2023年6月15日

特定非営利活動法人東海自然学園

代表理事 横井 進 殿

監事 川口 光 生



監査報告書

2022年4月1日から2023年3月31日までの、2022年度における業務執行並びに財産及び会計の状況について、特定非営利活動促進法の定めるところにより、同法第18条並びに定款第15条の定めによって監査を行いましたので、下記の通り監査結果を報告します。

記

事業報告・活動計算書・貸借対照表・財産目録及び会計諸帳簿類を精査した結果、経理処理・財産運用及び用途については、いずれも適正であり、業務については当初の目的を概ね達成できたことを認めました。

以上

<第3号議案>

2023年度事業計画

(2023年4月1日～2024年3月31日)

【2023年度方針】

今年度になり、3年間におよぶ新型コロナウイルスのまん延も一区切りつき、ようやく世の中もコロナ後を目指し始めた。当学園もコロナウイルスへの対応等決して油断することなく、徐々に安全に着実に従来の活動に戻す1年としたい。これまで自然が紡いでくれた「東海自然学園を支えてくれる人の輪」が、更なる発展をするよう諸体制を整備し、会員一同協力し活動する。

① 自然活動リーダーの養成講座事業

東海シニア自然大学 講座部

■基礎科

- ・担当スタッフの連携を深め、連絡を密にし、充実した内容で安全に運営する。
- ・合宿を含め、講師やフィールドの変更が必要な科目は全担当スタッフで事前に下見や打ち合わせをし、スムーズに当日が迎えられるよう進める。
- ・進路説明のタイミングや方法を工夫し、高等科への進学率を高める。

◇担当 9名 (+アシスタント9名)

◇人数 全72名 (2クラス)

◇実施日 年間30日間 (隔週金曜日)

◇計画内容

- ・年間カリキュラムの運営・進行・安全管理。
- ・学園祭に向けてクラスの取り組み。
- ・各委員会の活動支援。
- ・振り返りなど受講生の評価を参考に、カリキュラムの改善や見直し。
- ・記録、報告書の作成。

■高等科

- ・担当スタッフの連携を深め、連絡を密にし、充実した内容で安全に運営する。
- ・合宿を含め、講師やフィールドの変更が必要な科目は全担当スタッフで事前に下見や打ち合わせをし、スムーズに当日が迎えられるよう進める。

◇担当スタッフ 4名

◇受講生人数 高等科36名 選択科年間のべ23名

◇実施日 火曜日 (原則)

◇計画内容

- ・年間30日間のカリキュラムを計画
- ・各委員会の活動支援
- ・学園祭に向けてクラスの取り組みを支援するとともに基礎科への支援
- ・振り返りなど受講生の評価を参考に、カリキュラムの改善・見直し
- ・記録、報告書の作成

■カリキュラム選択科

- ・高等科受講生を含め40名を最大人数とし、それ以上の希望がある場合は抽選とする。

■専修科

- ◇ 担 当 2名（講座により+1名）
- ◇ 定 員 20名（講座により最大25名～17名） 催行最少人数12名
- ◇ 実施日 年間10講座 13日間
- ◇ 計画内容
 - ・昨年度と同じカリキュラムであるが、よりスムーズな進捗をめざす。
 - ・振り返りなど受講生の評価を参考に講座内容の改善、見直しを図る。
 - ・新講師、新講座の可能性を常に模索し、マンネリにならないようにする。

広報

- ◇担 当 スタッフ（5名）、サポート隊（5名）
- ◇方 針 積極的に新しい広報策を模索し実施する。
- ◇目 標 他の科・サポート隊との連携を強化し、定員72名確保を目指す。
- ◇具体的計画
 - 『ブログの内容を随時更新する』
 - 『20期生募集』
 - ・募集パンフレットの発行数は15,000部、デザインの見直しを行う。
 - ・募集パンフレットの発送 = 1回目（6月16日）2回目（10月19日）
 - ・体験入学の実施。1回目＝6月29日午前、2回目＝11月14日午前、3回目＝1月30日午後 場所＝森林公園多目的
 - 『学園広報活動』
 - ・メディアに投稿・取材依頼等を積極的に行う。（新聞社・テレビ局・NCS-J等）
 - ・イオンイエローレシートのキャンペーン活動に参加する。
 - ・「環境デーなごや」に参加する。

② 普及啓発事業

環境教育部

■環境教育科

- ◇担 当 2名
- ◇人 数 53名
- ◇方 針

社会貢献することを目的とし、様々なインタープリテーション技術の取得、向上を目指す。また、利益を追及する事業のみではなく、収入につながらなくとも自身の技術向上や社会貢献的価値のある事業を実施する。
- ◇目 的 自然の仕組みや魅力、楽しさや大切さを伝える。
- ◇今年度の目標
 - ・目標① 本来の活動である『人に伝えるアウトプット活動』を、積極的に取り組む。
 - ・目標② より良い作品を仕上げられるよう、技術の向上を図り、丁寧な仕上げに努める。
 - ・目標③ 定番作品を大切にしながらも、新しいアイデアで新作を考える。
- ◇計画内容
 - 毎月2回（第2、第4水曜日）の定例活動。
 - 担当スタッフが2名であるため、メンバーにサポートをお願いし、スタッフとメンバーが一体となって1年間の活動に取り組めるような体制をつくる。
 - 「戸田川緑地イベント」「なごや環境大学」「障害者支援施設への出前教室」など恒例となっている活動に加え、コロナで休止していた活動も復活させ活力ある1年とする。

③ 調査研究事業

研究部

■自然観察科

自然観察と自然に関する座学テーマについて、自分自身の学習意欲を高め、(リーダーとして)社会貢献することを目的に、それぞれのコースにて学習・研究・実践を行う。

レギュラーコース

◇実施日 第2・4月曜日

◇担当 4名

◇人数 25名

◇目標 お互いに学びあい知識を深める。

◇活動内容

●活動日数

- ・科員減少に伴い3班体制、各班担当の座学2回、フィールド3回で計画。
- ・班減少分はキャリアとの合同観察会、互いに教えあう観察会、まとめ、振り返り等。

●フィールド

- ・4月 藤巻 ・5月 鶴舞公園、多度山 ・6月 明智の森、竹島 ・7月 伊吹山
- ・9月 五色園 ・10月 森林公園、金華山 ・2月 勅使池、藤原(聖宝寺周辺)

キャリアコース

◇実施日 第2・第4月曜日

◇担当 2名

◇人数 12名 (10期生:3名、11期生:6名、12期生:3名)

◇目標 お互い学び合い知識を深める

自然観察科の目的である自分自身の学習意欲を高め、社会貢献できるような年間計画を立て学習・実践する

◇計画事項 フィールド14回、天白公園観察会6回(下見含む)、基礎科受託講座を築水の森にて4回(下見、リハーサルも含む)実施する。

8月にレギュラーコースと合同で熱田の森観察会を行い、その後懇親会を計画
10月の天白公園観察会、1・2月の受託講座は、レギュラーコースの4年生と合同で活動する。

◇月別計画 (合計25回)

- | | | | |
|------|-------------|------|---------------|
| ●4月 | 総会、石巻山 | ●5月 | 天白公園観察会、マルバの里 |
| ●6月 | 城山、伊吹山 | ●7月 | 天白公園観察会、上高地 |
| ●8月 | 熱田の森 | ●9月 | 海上の森、明智の森 |
| ●10月 | 天白公園観察会、面の木 | ●11月 | 段戸裏谷、大滝溪谷 |
| ●12月 | 長良川ふれあいの森 | ●1月 | 受託講座下見、リハーサル |
| ●2月 | 受託講座(築水の森) | ●3月 | 伊良湖、やまじの森 |

④政策についての企画提案事業

事業部

■新規事業科

◇担当 4名+α (検討課題によりメンバーは随時編成)

◇内容

●助成金申請

- 1) 「あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業交付金」(2022年度に続き3回目)
→交付金(733,000円)を自然保護に関わる人材育成に活かし、更なる活動の発展につなげる。
- 2) 新たな助成申請先の検討(各種団体の助成金情報を広い範囲で収集)

●その他検討テーマ

- 1) 賛助会員の拡充検討: 制度の見直しなど
- 2) OBとの連携強化: 第2回OB交流会の企画などOBとの協調企画を模索。
- 3) これまでの事業活動を通し積み上げてきた知識・技術をフル活用した社会貢献活動に資するよう関係部門との連携を密にして情報収集、分析を行っていく。

交流部

◇担当 3名

◇年間目標

- ・OB会員の活性化、親睦を目的とした企画を計画し実施する。
- ・クラブ活動が安全、健全に実施されるよう、実態の把握に努め助言する。

◇実施内容

●クラブについて

- ・クラブ長会議を開催する。
- ・新たなクラブ設立を呼びかけ、クラブ数を増やす。

●OBの活動について

- ・新型コロナウイルスまん延状況をみて、OB旅行の企画を考える。

●「あらくさについて」

- ・例年どおり4回発行する。

◇各クラブの活動計画

「野鳥クラブ」

●クラブ長 加藤浩生(15期) 登録人員(23名) 会費1,000円/年

●活動方針と目標

野鳥観察を通して、自然に親しみ、会員相互の親睦を図り、楽しい時を過ごす。

- ① 探鳥会を4回開催する。
- ② 野鳥観察がより興味深くなるように、座学を1回開催する。
- ③ 秋の学園祭にクラブとして参加する。
- ④ クラブ員間の親睦を深める。

●活動内容

- ・第1回行事: 探鳥会(海上の森) 5/24(水)
 - ・第2回行事 8月 座学 & 昼食会
 - ・第3回行事 11月 学園祭参加
 - ・第4回行事 12月 探鳥会(庄内緑地)
 - ・第5回行事 1月 探鳥会(小幡緑地)
 - ・第6回行事 3月 探鳥会 & 総会(勅使池)
- ※ 時期・場所とも変更の可能性あり(探鳥優先)

「写真クラブ」

●クラブ長 嶋田 茂雄（9期） 登録人員（37名） 会費 1,000円

●活動方針

- ・自然の景観・生物、これを取り巻く生活環境等を撮影し作品作りを楽しむ。
- ・活動への参加を通じて会員相互の交流と親睦をはかる。

●活動計画

- ・4/14（金） 写真クラブ総会・・・（午前中）東山動植物園 植物会館
- ・5/16（火） 岐阜ワールド・ローズガーデン撮影会
- ・6/7（水） 互選会と写真研究会 2L～A4程度のプリントでの互選会「神田荘」
- ・7/11（火） 入笠山・高山植物撮影会
- ・8/2（水） 互選会と写真研究会 2L～A4程度のプリントでの互選会「神田荘」
- ・9/26（火） 京都植物園撮影会
- ・10/4（水） 互選会と写真研究会 2L～A4程度のプリントでの互選会「神田荘」
- ・11月 学園祭写真展示（場所未定）
- ・12/5（火） 名古屋港水族館撮影会
- ・1月 随時計画
- ・2/22（木） 名古屋農業センター・しだれ梅撮影会

「自然体験クラブ」

●クラブ長 小笠原孝三（14期生） 登録人員（67名） 会費 1,000円

●活動目的

自然の中で遊び・学び、自然への理解を深め、或いは歴史・文化に触れることを通じて、豊かな人間性、心のかよった人と人のつながりを創り、人と自然が共存する文化・社会の意識を高めることを図る。

●活動方針

- ・様々な自然の中で遊び、自然を分かち合う。
- ・野菜・山菜・木の実・魚介類等の自然の恵みに感謝する。
- ・歴史・文化・自然に関する史跡・遺産等の訪問。
- ・その他目的を達成するための活動。

●計画内容

- ・5/21（日）：中川運河クルーズとワイルドフラワーガーデンブルーボネット
- ・9/21（木）：西村自然農園
- ・11/16（木）：トヨタ産業技術記念館とノリタケの森で絵付け体験
- ・3/7（木）：本光寺椿と竹島水族館

「地質クラブ」

●クラブ長 園田信五（11期生） 登録人員（108名） 会費 1,000円

●活動方針

- ・今年度も、顧問である森勇一先生のご案内で、巡検を行う。行き先、時期などは森先生と相談し決め、現地集合による巡検や、貸し切りバスの使用する巡検、22年秋の観察会の折に試みたオムニバス形式による巡検企画など、クラブ会員が等しく参加出来るような企画を提案する。
- ・今年度も学園祭に参加し、地質クラブの活動を広く周知する。

●事業予算について

- ・巡検時の講師代・バス代などは、受益者負担の考えから参加者された方から、その都度集金する。なお、年会費は学園祭出展費用や巡検の下見などの諸経費として使用。

「植物クラブ」

●クラブ長 杉田 春一（17期生） 登録人員（81名） 会費 1,000 円

●活動方針・目標

- ・植物の魅力と感動を共有
- ・自然大学で学んだ植物好きな仲間が集まって観察会を行うことで、相互の親睦を図り植物の魅力と感動を共有する

●活動計画

- 第1回 4/21（金） 海上の森観察会 愛知県瀬戸市 東海の間山地区の春の植生観察
- 第2回 5/10（水） 城山観察会 長野県・木曾福島 城山の登山道自然の高山植物の観察
- 第3回 5/31（水） 入笠山観察会 長野県富士見町 花の100名山 高山植物の観察
- 第4回 6/13（火） みずの森観察会 滋賀県 草津市 琵琶湖の水生植物を観察
- 第5回 7/31（水） 地蔵川 観察会 滋賀県 醒ヶ井 地蔵川の梅花藻の観察 予定
- 第6回 9月予定 明智の森
- 第7回 11月予定 検討中
- 第8回 3月予定 東山植物園

「植物アートクラブ」

●クラブ長 松山 治和（14期生） 登録人員（19名） 会費 2,000 円

●活動方針・目標

- ・植物を描くことにより、植物の観察力を高め、理解を深める。東海自然学園の卒業生らしい絵が描けるよう努力する。
- ・絵を描くことに基礎はありません。絵を描きたいという気持ち为基础です。従って描いた絵の評価は自分自身でしか出来ません。完成した絵は、毎日見ていろいろのことを考え、感じて楽しむことです。

●活動内容

- ・植物の特徴をとらえ、それを描くことにより表現の楽しさを知る。
- ・月毎の課題に沿って作品を仕上げる。
- ・全員の作品を鑑賞し、講師の講評・助言を通し作品の質を高め、また親睦を図る。
- ・学園祭において作品の展示を行う。

●活動計画

- ・日程 毎月第4木曜日
- ・主な活動場所「名古屋市総合福祉会館」

「自然句詠クラブ」

●クラブ長 伊藤 繁子（8期生） 登録人員（17名） 会費 1,000 円

●活動方針・目標

- ・自然を愛（め）で、その感動を575（俳句）に表現し楽しむ。
- ・メンバー全員が何らかの役割を担い、クラブの運営に主体的に参画する。

●活動計画

- ・月1回（月末週）句を持ち寄り句会を実施する（お互いに評価し合う）
- ・句会実施日に終了後、希望者で反省懇親会を実施する。
- ・句会のうち年2回程度、吟行（現地に赴き作句し句会を実施）。
- ・句会に年2回ほど講師を招き指導を受けレベル向上をめざす。
- ・1年の纏めとして句集を編集する。
- ・「写真で1句」を年2回行う。

「湿地クラブ」

●クラブ長 小沢 球一（10期生） 登録人員（16名） 会費 1,000 円

●方針・目標

- ・湿地観察のベテランを育成するとともに湿地に関するデータを作成、収集、保存し併

せて湿地保護のボランティア活動を行う。

●活動計画

(湿地観察会)

- ・4/1 築水の森 ・5/6 各務野自然遺産の森 ・6/16 葦毛湿原、・黒河湿地
- ・7/21 金生水沼沢植物群落 ・8/5～8/6 浮島自然公園、箱根湿性花園
- ・9月 天生湿原 ・10月 根の上高原 ・12月 藤前干潟

(湿地保全ボランティア活動)

- ・1月、2月 大狭間湿地

「ハイキングクラブ」

●クラブ長 栗田 博之（13期生） 登録人員（82名） 会費1,000円

●活動方針

- ・自然観察及び散策、町の歴史探訪を通して自然や歴史にふれあい知識を高める。
- ・体力の維持及び増進。
- ・活動への参加を通じて会員相互の交流と親睦をはかる。

●活動計画

- ・第18回 水都大垣ハイキング 2023年5月20日（土）
- ・第19回 東海道御油宿～赤坂宿と豊川稲荷ハイキング 2023年10月7日（土）
- ・第20回 紅葉の養老公園ハイキング 2023年12月2日（土）
- ・第21回 浄土真宗専修寺散策 2024年3月2日（土）

「プチ・トレッキングクラブ」

●クラブ長 鈴木 行薫（15期生） 登録人員（77名） 会費1,000円

●活動目標

- ・軽易なトレッキングを通して、自然に親しみ会員相互の研鑽と親睦を図る。

●活動計画

- ・4月28日（金） 山門水源の森（滋賀県）
- ・8月 入笠山 又は八島湿原（長野県）
- ・12月 沖島&安土城（滋賀県）
- ・2月 熊野古道（松本峠&鬼ヶ城）

「蝶と花の観察クラブ」

●クラブ長 大脇 雅久（8期生） 登録人員（49名） 会費1,000円

●活動目的

- ・東海地方の減少傾向にあるチョウ類と植物の調査。
- ・観察会などで蝶と植物の解説ができるリーダーの育成。

●活動計画

- ・4月5日、6日 小幡緑地での活動
- ・4月12日、13日 釜戸での活動
- ・4月19日、20日 小幡緑地での活動
- ・5月10日、11日 小幡緑地での活動
- ・5月24日、25日 小幡緑地での活動
- ・5月31日、6月1日 小幡緑地での活動
- ・6月7日、8日 小幡緑地での活動

⑤自然環境保全事業

自然保護部

■森林公園整備科

◇活動日 毎月第2・第4木曜日

◇科員数 24名

◇活動計画

『安全』

- ・作業開始前に「事前打合せ」「安全作業マニュアル読み合わせ」を行い安全作業の徹底を図る。
- ・ヒヤリハット集を作成し安全作業に活用する。

『整備活動』

- ・「植生調査」の実施・記録を残し、調査に基づいた整備に活用する。
- ・適宜「観察会」を実施し、保護した区域等の状態を確認する。

『その他』

- ・科員の交流・親睦を深める。

■瀬戸里山整備科

年間計画をリーダーを中心に作成し、竹林部分、雑木林部分の作業日を意識して設定し実施する。急斜面の作業が多いため、安全作業を最優先としていく。

◇担当 2名

◇登録者 18名

◇実施日 第3土曜日、但し雨天の場合は、予備日第4土曜日

◇活動場所 瀬戸市曾野町

◇活動内容

- ① 安全作業を最優先し、事故のない1年を目標とする
- ② マニュアルの読み合わせ、ヒヤリハットの作業前後の徹底
- ③ 竹林ではタケの年度別表示を継続、雑木の除伐を行なう。雑木林部分については樹種の確認を行い残す樹木について討議し印付けを行なう。
- ④ 科員増員の広報活動を行なう・・・ケヤキに投稿・タケノコ堀・門松づくり
- ⑤ 学園祭（係）委員を任命し、参加を全体の課題とする
- ⑥ 定点観測を継続し、作業の進捗状況、整備後の成果を行なう
- ⑦ 懇親会を実施し科員の交流を深め

⑥その他目標を達成するために必要な事業

該当事業計画なし

〈第4号議案〉

2023年度収支予算計画

2023年度活動予算書

(2023年4月1日から2024年3月31日)

(単位:円)

科目	金額		備考
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	110,000		正会員 22名
賛助会員受取会費	100,000		
利用会員受取会費	1,476,000	1,686,000	利用会員492名
2. 受取寄付金			
受け取り寄付金	300,000	300,000	
3. 受取助成金収入			
受け取り助成金	733,000	733,000	
4. 事業収入			
自然活動リーダー養成講座授業収益	10,506,000		受講料
普及啓発事業収益	200,000		
調査研究事業収益	0		
政策についての企画提案事業収益	50,000		
自然活環境保全事業収益	0		
その他事業収益	0	10,756,000	
5. その他収益			
雑収入	0		
受取利息	0	0	
経常収益計			13,475,000
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
給料手当	3,766,600		
通勤手当	220,000		
法定福利費	693,400		
人件費計	4,680,000		
(2) その他経費			
謝礼金	1,705,000		
教材費	180,000		
会場費	700,000		
広報費	400,000		
リーフレット代	330,000		
講師交通費	90,000		
スタッフ交通費	1,600,000		
バス代	0		
消耗品費	800,000		
雑費	20,000		
家賃	960,000		事務所家賃
接待交際費	0		
水道光熱費	110,000		
コピー維持費	250,000		
保険料	400,000		NPO活動保険
通信運搬費	800,000		郵送料、通信費
諸会費	0		
研修費	0		
その他経費計	8,345,000		
事業費計		13,025,000	
2. 管理費			
(1) 人件費			
給料手当	180,000		会計担当給与
退職給付費用	50,000		
福利厚生費	15,000		
人件費計	245,000		
(2) その他の経費			
セキュリティ料	100,000		
事務用品費	10,000		
租税公課	0		
支払手数料	85,000		消費税分
雑費	10,000		会計指導料等
その他経費計	205,000		
管理費計		450,000	
経常費用計			13,475,000
当期経常増減額			0
III 経常外収益			0
IV 経常外費用			0
当期正味財産増減額			0
前期繰越正味財産額			7,009,773
次期繰越正味財産額			7,009,773

<第5号議案>

2023年度役員選任

2023年度の役員として下記の方を選任致します。

- ・ 代表理事 朝田 泰
- ・ 筆頭理事 中野 治男
- ・ 理事 上田 元己
- ・ 理事 吉村 至衛
- ・ 理事 福岡 潔
- ・ 理事 森下 保男
- ・ 理事 鈴木 好則
- ・ 理事 中川 員
- ・ 理事 森 静枝
- ・ 理事 林 昌子
- ・ 理事 祖父江 洋子
- ・ 理事 波多野 桂一
- ・ 理事 霜 桂子
- ・ 理事 近藤 秀光
- ・ 監事 横井 進

その他報告事項

上記役員以外の2023年度正会員

- ◆ 中村 由紀子 (17期生)
- ◆ 杉田 春一 (17期生)
- ◆ 真島 富男 (17期生)
- ◆ 服部 幸枝 (17期生)
- ◆ 寺澤 明子 (17期生)
- ◆ 山田 佳代子 (17期生)
- ◆ 友松 康二 (17期生)

<第6号議案>

年会費の改定

●改定内容

2024年度より下記のように年会費を改定する。

会員種別	変更前	変更後
正会員	5,000円	6,000円
利用会員	3,000円	4,000円

●改正理由

設立以来、会員は据え置きであったが、消費税率の引き上げをはじめ、郵送料や光熱費などが値上がりし、設立当初の年会費では安定した運営が困難となってきた。今後も運営を継続していくために、やむを得ず年会費の改定に踏み切った。